

## 2019年度シラバス作成要領

貞静学園短期大学

※太字記載箇所については特に留意ください。

### 1. 担当科目と卒業並びに免許・資格取得との関連についての記載

授業科目名の欄に卒業必修科目、教員免許状取得または保育士資格取得のための必修科目、選択必修科目、選択科目等学生に卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連を周知するため科目名の後に「卒・幼・保」の別を記載する。

また、当該授業科目の教育課程内の位置づけを表すナンバリングを記載すること。

(※「卒・幼・保」の別及びナンバリングについては、シラバス内容確認担当にて記載するため未記入で提出いただくことができます。)

### 2. 授業の到達目標とテーマの記載

担当科目について学生に獲得させる「授業の到達目標」と「テーマ」について記載する。

### 3. 授業内容の記載

授業の到達目標を達成するために行う授業の内容を記載する。

### 4. 準備学習の記載

平成26年度シラバスより喚起してきた準備学習の記載について、授業の到達目標を達成するという視点から、学生に明確に周知するよう、授業計画の中に予習・復習等の〈準備学習〉について具体的な内容・必要な時間の目安を記載する。(別添参照)

### 5. 授業計画の記載

「授業計画」欄について、各回の授業内容を具体的かつ簡潔に記載する。これは学生が事前にシラバスを読むことで授業内容を知った上で授業に参加するためのものである。複数回に渡って同様のテーマを取り扱う場合であっても、数字のみで区別するのではなく、授業回で扱うテーマのキーワードを記載し、**各回の違いを明確にすること。**

15回の授業計画記載のあとに「定時試験」と記載する。定時試験を実施しない場合は、その旨記載すること。

**15回の授業において実施された小テストやレポート等の課題については、フィードバックを実施するように努めるとともに、その方法について必ず記載すること。**

**学生の意欲的な学びを促進する取組として、該当する授業回に積極的に記載してください。**

(別添参照)

### 6. 成績の評価方法の記載

① 学生に対して単位を付与する際に、どのような観点で成績を付け、単位を付与するのかについて簡潔に記載する。

② 出席状況を評価に反映してはいけないことになっていることに注意する。

③ 成績評価に用いる要素(例：授業態度、定時試験成績、提出物・・・等)の**評価割合を% (百分率)で表示する。**

⑤ 用語統一・・・「定時試験」と記載する。

### 7. 「テキスト」、「参考書・参考資料」の記載

特に使用しない場合は「特になし」と記載し、空欄にしないこと。

ただし、準備学習の記載を行っている以上、学生が事前に何を見て準備したらよいのかということに直結するため、**どちらか必ず記載**する。

さらに**指導法担当教員は「テキスト」、「参考書・参考資料」のどちらかに「幼稚園教育要領」、または「保育所保育指針」が必ず記載。**

## 授業計画欄に関する記載内容について

### 準備学習について

「テキストの予習」などだけではなく具体的な内容を明示してください。

記載例

- ・教科書の p12～p23 を読んでおくこと（60 分）
- ・次回の授業テーマに関する自らの経験を振り返る（60 分）
- ・〇〇に関して練習をしておくこと（60 分）

※短期大学設置基準第 7 条では、講義および演習については 1 単位における必要な学修時間が 45 時間とされ、15 回分の授業で 30 時間、残りの 15 時間に授業時間外の学修が必要と定められている。

### 課題に対するフィードバックの方法について

授業における課題について、学生に対するフィードバックの実施にご協力ください。

記載例

- ・フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行います。
- ・フィードバックとしてレポートにコメントを返します。

（抜粋）私立大学等経常費補助金 教育の質に係る客観的指標より

⑩ 準備学修に必要な時間等のシラバスへの明記	
設問	
シラバスの作成要領等により、以下の内容をシラバスに明記することを全教員に求めていますか。	
ア 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
イ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
ウ 授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準	
エ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
オ 当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）	
1 全て求めている。	4 点
2 4つ求めている。	3 点
3 3つ求めている。	2 点
4 上記のいずれにも該当しない。	0 点

## アクティブ・ラーニングの取り入れの状況

学生の意欲的な学びを促進する取組として下記の項目について、授業内で一場面でも該当する場合には積極的に記載してください。

- ・グループ学習、問題解決学習、体験学習、調査学習
- ・ディスカッション、ディベート、学生によるプレゼンテーション
- ・理解度確認（確認テスト、ミニレポート等）
- ・レスポンスカードやコメントシート（授業についてのふり返り、思ったこと、疑問等を記述したもの）の使用

### 記載例

- ・グループワークとグループ発表を行う。
- ・確認テストを時間内に行う。

（抜粋）私立大学等経常費補助金 改革総合支援事業 タイプ1より

タイプ1-⑧ アクティブ・ラーニング		
設問		
以下のア～オのいずれかのアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を開講していますか。		
ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
イ	ディスカッション、ディベート	
ウ	グループワーク	
エ	プレゼンテーション	
オ	実習、フィールドワーク	
1	当該年度開講科目のうち50%以上	4点
2	当該年度開講科目のうち30%以上	2点
3	当該年度開講科目のうち10%以上	1点
4	上記のいずれにも該当しない。	0点